

大学名	コメント
長崎国際大学	<p>コロナ禍を経て、大学の教育現場ではICT技術を活用したオンライン授業など学びのあり方が多様化し、多くの変化がみられた。今後は益々、生成AIやデータサイエンスなど、新しい技術が様々な形で学修活動に導入されると考えられるため、教職員は自らICT技術や知識の修得に努めると共に、協働して教育の質向上を目指さなければならない。また、卒業生や地域社会との繋がりを深め、QSP参画校の間での連携促進を図ることによって学修活動に広がりを持たせ、学生の興味関心や学ぶ意欲を高め、授業外学修時間の確保などに務めていく必要がある。</p> <p>本学の在籍者数は収容定員の92.3%であり、一部の学部学科で入学定員を充足し得ていないことに加え、学力不足の学生や合理的配慮を必要とする学生など、多様な入学生を受け入れる必要がある。現在、在籍者数に対する留年者数・退学者数の割合は概ね3%程度であり、定員充足を目指すことと併せて、多様な入学者の学力等の状況、特性を踏まえ、個々の学生に対するきめ細やかな対応を充実させることで留年・退学者の減少(離学防止)に努め、資格取得や希望する進路・就職の実現へと結びつけていかなければならない。さらに、本学においても多数の留学生を受け入れており、近年、その出身国・地域等も多様化しているため、日本語能力の向上をはじめとして様々な支援の充実と拡大が課題となっている。留学生を含む新入学生、在学生のそれぞれが必要とする手厚い支援・サポートを大学として充実させていくことで、学生生活全般に高い満足度を得ると共に、卒業時における学修成果の可視化など教育の質保証に取り組んでいくことを、本学の重要な課題と認識している。</p>
長崎総合科学大学	<p>本学の社会人学生数は0人である。退学率は4.56%と大きく、留年率は4.42%と小さくない。これらは(QSP参画)私立大学の平均と比較してもどちらも1ポイント以上大きな数値である。特に退学者数を減少させることが急務である。</p> <p>進学率は卒業者数の10.98%である。これは国立大学には及ばないものの、私立大学の平均と比較すると高くなっている。高度な理系人材を求められていることを鑑み、さらに進学率を上げることが必要と考える。</p>
長崎外国語大学	<p>就職率について、私立4年制大学の中で本学が最も低くなっており気になる。その理由は卒業後母国への帰国後に就職する留学生の就職決定までに(年度の端境期の違いによる)タイムラグが存在するためであるが、多くの留学生を抱える他大学では一定程度の就職実績を挙げられているようであり、この点で成功している大学の留学生就職支援事例をQSP全体へ敷衍展開していただくことも今後検討願いたい。</p>
鎮西学院大学	<p>私立大学及び短期大学における本学の収容定員充足率、留学生在籍率、留年者率については上位に位置しているが、退学率は平均よりやや高い状況である。成績不良者等に対してはきめ細かい指導を行っており、留年者の抑制に効果を上げているが、退学率の抑制まで繋がっていない状況を分析する必要がある。</p> <p>また、社会人学生数については受け入れ数が0となっているため、受入れ増の対策を講じる必要があると思われるが、本学独自の対策だけでは改善は困難であるため、QSPで連携して改革を進める必要がある</p>
西九州大学	<p>収容定員充足率は88.2%となっている。収容定員の充足を目指すために日本人はもちろんのこと留学生の確保に力を入れる。また、学生主体のカリキュラム編成と手厚い支援体制を構築し、休学者や退学者の減少を目指している。</p>
長崎短期大学	<p>本学の学生の構成は留学生比率が高い傾向にある。国際情勢(円安)の影響を受けやすい留学生募集は不安定であるため、伝統的受験者に加え社会人の受入れを促進したい。</p> <p>(例えば、潜在保育者の短期リスクリングプログラムを自治体および産業界と連携して開発する等)</p> <p>また、退学率は低い傾向にあるため入学者がすべて卒業にいたるよう今後も学生支援を続けたい。なお、留年率は高いが海外留学を理由とするものがほとんどである。</p>
西九州短期大学部	<p>収容定員充足率は76.8%となっている。本学の場合、委託訓練生は9割近くの定員確保及び、留学生についても多数の受け入れが出来ている。収容定員の充足を目指すために日本人学生募集活動の再考及び社会人学生受入拡大を推進する。</p>
佐賀女子短期大学	<p>IRデータによると、本学は他の短期大学に比べて留年者が少ないが、退学者数は多い。留年者の少なさには成績評価のあり方が影響している可能性があり、今後は成績評価を厳格化すべきと考える。一方、退学者数の多さについては進級や卒業前に学生が留年ではなく退学を選択することが影響している可能性がある。これらのデータから、本学では成績評価の強化を行うとともに、中途退学を抑制するための学生支援が重要な課題であると認識している。</p> <p>募集面では社会人学生が少ない状況で、この点を強化する必要がある。また、留学生比率が比較的高く、今後はさらにこれが増加することが想定されるため、その受け入れ態勢の強化も重要な課題である。</p>
九州龍谷短期大学	<p>入学者に対する退学者の多さが特徴として挙げられる。</p> <p>専門的なコースを中心としているために、進路変更に伴う退学がある。進路変更を考える際、早期のアドバイザーの対応とサポートにより、退学以外の選択肢も提示する必要がある。</p>